

お茶大での留学生活

アンカラ大学

エルコチュ・アイス・イミラン

私は、アンカラ大学日本語日本文学科からお茶の水女子大学に長期交換留学生として来たエルコチュ・アイス・イミランと申します。前期はコロナウィルスの影響で日本に入国できず、オンラインで授業を受けていました。今学期は、3月13日に日本に入国することができました。ここからは、日本に入ってから体験したことをお話ししたいと思います。

その前に、今学期の間、たくさん手伝ってくれた方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、指導教官の浅田先生、毎月振り返りシートを読んでいただき、本当にありがとうございました。そして、初めて研究室に伺ったときに教えていただいたことが、勉強になりました。国際課大野さん、入国手続きを手伝ってくださってありがとうございました。チューターの大熊さん、いつもアドバイスしてくださってありがとうございます。萩原先生と松田先生、私をサポートしてくださってありがとうございます。また、管理室の方には、寮の生活について、たくさん支援をいただき、ありがとうございました。最後に、今学期受けた授業担当の先生方に、心から感謝の気持ちを申し上げます。

交換留学生は、「交換留学生 HR」を含む合計8つの科目を履修する必要があります。ですから、合計9科目を受講しました。この9つの授業は、それぞれ私の日本や日本語に対する知識を大きく向上させました。



萩原先生の「日本語演習ⅡA」は、他の人に役立つ日本語のウェブサイトを作つくる、そして、調べたことを発する授業です。私が作ったウェブサイト「華の歌言葉」はさまざまな花の名前を含む歌を紹介し、その花の持つ意味を説くサイトです。そして、花の名前が含むトルコの歌を日本語に翻訳し、紹介しました。このテーマを選んだとき、歌詞を通して日本文化における花の位置づけを知ってもらいたいと思ったのです。



西坂先生の授業「日本事情演習ⅡA」は、防災・減災について学びました。この授業のおかげで特に地震に対する災害対策の意識は本当に高まりました。グループ課題として池袋防災館に行く機会があって、私たちのグループはナイトツアーに行きました。生まれて初めて消火器を使いました。そして、地震体験にも参加しました。そこで震度7の地震を体験したのは恐ろしかったです。また、学期末課題として、グループで留学生向けの防災ガイドブックを作成しました。

加藤先生の授業「日本語演習ⅢA」では、主に発表の仕方について学びました。この授業のおかげで、初めてPREP法、SDS法、TAPS法などを使って発表することはできました。毎週色々なテーマに沿って自分や自国のこと、日本のことについてミニ発表をしました。期末課題として、クラスメイトのアイさんと私は「もののあはれ」について発表をしました。



小林先生の読解の授業でトルコの健康の諺や名付けを発表したおかげで、トルコの文化を紹介する機会がありました。天木先生の「日本事情演習4A」で様々な社会問題について日本語で意見交換するようになりました。そして、加藤先生の上級Aと黄先生の中上級A漢字の授業で学んだ表現が私の日本語の知識を大幅に向上させた実感しています。また、ビンデリア先生の文法の授業では色々な文法科目を復習することができました。

今学期、日本での生活を楽しむこともできました。ゴールデンウィークで、関西に行きました。大阪・京都・神戸の色々な場所を訪れる機会を得ました。特に大阪城、嵐山、清水寺、稻荷神社、布引ハーブ園が印象に残っています。

お茶大では、香道教室、生け花教室、書道教室、歌舞伎勉強会などに参加しました。そして、歌舞伎座にも行きました。お茶大のサマープログラムに運営委員として参加しました。ダイアログチームのメンバーでした。ファシリテーターとしてイベントに参加するのは初めてでしたが、とても良い経験になりました。

授業や課題の合間を縫って、東京とその周辺を巡る機会を得ました。三鷹にある太宰治文学サロンと太宰治が入水した場所、多摩霊園にある三島由紀夫と江戸川乱歩の墓、夏目漱石の小説にも出る三四郎湖、上野公園とその中の美術館を訪れました。そして、鎌倉にも行き、長谷寺の観音様や高德院の大仏様を見るチャンスもありました。アンカラ大学の授業で靖国神社についてのテキストを翻訳したので、この神社を絶対に見たいと思って、そこで行われるみたままつりに参加しました。

交換留学生として過ごしたこの8カ月は、私にとって最高の経験になりました。そして、今学期を通して、多くの先生方、留学生、日本人学生と出会い、交流することで、自分の視野をさらに広げることができたと感じています。

